

# タイにおける移民児童の教育問題： ミャンマー家族への調査報告

野津隆志・馬場智子

# 研究の目的

タイの異なる社会集団の教育戦略を探り、集団間の違いを明らかにすること

- 教育戦略：各社会集団の再生産戦略の一環をなすもの。意図的、無意図的な教育への態度や行動

志水・清水（2001）『ニューカマーと教育』

# タイでの教育格差への注目

## ●政策レベル

「2017年教育改革のための独立委員会」

- 最終報告書『タイ教育改革ミッション報告書』に「教育の不平等」
- (1)最低所得世帯の2歳以下の乳児 77万人
- (2)学校に行けない子ども 就学前教育段階23万人、義務教育段階20万人
- (3)就学している貧困家庭の子ども 就学前教育段階61万人、義務教育段階180万人
- (4)貧困のため高校に進学できない若者 24万人
- 森下稔 (2022) 「タイにおける学校に行けない子どもたち (OOSCY)」  
比較教育学会紀要

## ●経済学者の教育格差研究

PISA、MICSなどの統計分析による格差研究

野津、ヨットモーン (2020) 「タイの教育格差に関する基礎的分析」

商大論集 第72巻 第3号

# 本研究の課題と方法

●従来の研究：異なる社会経済条件の家庭の教育意識や教育行動の具体像については、なお研究が不足している。

●本研究の課題：「高所得層」「農民層」「低所得層」「移民」など異なる社会経済環境の家庭の教育意識や教育行動を比較する実証的調査研究を行う

●本研究の方法

インターネットを活用した質問紙調査やインタビュー調査

●本発表

研究の一端として、ミャンマー移民家族に対して行った質問紙調査の報告を行う。

# 調査対象の概要

本研究ではタイ・ターク県のミャンマー移民家族を調査対象とした。ターク県は、タイ北部に位置し、県西部全体がミャンマーと国境を接している。1984年に開設された、タイ・ミャンマー国境難民キャンプで最大の30,000人が居住するメラ難民キャンプがある等、労働者として移民を受け入れる前からミャンマーとの関わりも深く、タイで最も多くのMigrant Learning Center (NGOなど民間組織が運営するノンフォーマル教育機関、以下MLC) が置かれている。

また、タイ国内で唯一、行政機関とMLCの連携のための部署、Migrant Education Coordination Center(以下MECC)を教育委員会内に創設した県でもある (馬場、2021)。

# Migrant Learning Center設置数と児童生徒数

県	センター数	児童生徒数（人）
バンコク	3	139
チェンマイ	2	22
チェンライ	4	190
チュムポン	2	72
カンチャナブリ	1	233
パトムターニー	4	193
パンガー	3	300
ラノー	13	2,462
ラヨー	1	50
サムットプラカン	2	47
サムットサーコーン	4	510
<b>ターク</b>	<b>70</b>	<b>12,085</b>
トラート	1	25
合計	110	16,350

出典) United Nations Thematic Working Group on Migration in Thailand, 2019, p.103.



# Burmese Migrant Workers' Education Committee

本研究は、ターク県のミャンマー人コミュニティにおける調査をBurmese Migrant Workers' Education Committee (BMWEC) に依頼した。BMWECは、MECC主催の定例会議にも出席しており、ターク県でMLCを複数運営するNGO団体の1つである。

また、2020年にCOVID-19の感染が拡大した際にはMECCの調査に先駆け、感染症拡大によるMLC教員と移民家庭の直面する問題を調査し、報告書 *Situational Survey Report of BMWEC MLCs during the COVID-19 Pandemic* を作成するなど、家庭環境調査の実績もある。

→2020年4月、26のMLCを対象に調査：ミャンマー人教員、家族がミャンマーに帰国せざるを得ない状況（約7割のMLCで、10分の1の家族が帰国）、18のMLCで、最も不足しているものに“食料”と回答

→BMWECの報告書を受け、MECCが64のMLCを対象に調査し、報告書を作成（2020年6月）

タイの公立学校と共通する課題もあるが、異なる課題として以下の3つに直面していることが判明

**1. 食糧不足**は、各家庭で最も深刻な問題である

**2. MLCの閉鎖と、保護者の失業によって児童労働のリスクが高まっている。**また、ミャンマーに帰国した家族の1割が、タイに再入国できない状況にある

**3. 資金不足によって、十分な（児童生徒間、児童生徒—教員間の）物理的距離をとれる教室を設営できないため、多くのMLCで再開の見込みが立たない**

- ・作成チームは、7つのNGOとMECCに所属する2名の教育省職員で構成
- ・ターク県のMLC数70のうち9割以上のMLCを網羅、県の概要を捉えているといえる



# 調査方法

まず日本で①保護者（回答者）の職業や学歴等を含めた基礎情報、②子どもの家庭環境（教育環境を中心に）、③保護者の教育方針、に関する質問紙調査を作成し、BMWECとWEB会議システムを用いて実施計画を策定し、2022年1月から3月に実施した。

回答者全員がミャンマー出身（現在の国籍は不明）で、BMWECの運営するMLCに子どもを通わせている

アンケート調査は（1）BMWECが保護者の住む村を訪問しての調査、（2）MLC等に保護者を集めての調査、の形式で行った

その後、発表者が調査結果の背景・理由についてBMWECに追加インタビューを実施した

# インタビュー実施の様子



BMWECのスタッフが、複数の保護者に口頭で質問して回答を記録している（表紙の写真も同様）

# ①保護者（回答者）の職業や学歴等を含めた基礎情報



■ 10-19 ■ 20-29 ■ 30-39 ■ 40-49 ■ 50-59 ■ 60-69 ■ 70-79

- 回答者80名、10歳前後の子どもを持つ家庭が対象。
- 回答者中最も多いのは母親（61名）で、30代・40代で6割強（52名）を占める
- 子どもの数は“3名まで（1～3名）が半分以上。最高が12名。1世帯当たり的人数を尋ねており、祖父母が複数の家族の子どもを養育している等のケースもある

# 世帯収入について



10世帯で、父親の収入無（仕事をしていないのは12世帯）という回答。

41世帯で母親の収入無（仕事をしていないのは38世帯）

調査結果の中で、母親の約半数が「働いていない」と回答していることの原因をBMWECスタッフに追加で質問：その結果、以下の3つのタイプに分かれるとの回答

- 1.COVID-19流行下でも以前の仕事を続けているケース
- 2.以前は就業していたが、COVID-19で仕事を失ったケース。  
Tak県でも、COVID-19の影響で職を失うあるいは（失業していないが）仕事がないという状況がある
- 3.元から仕事をしておらず、基本的に夫の収入で生計を立てているという家庭もある

COVID-19以前から仕事をしていて、今も働いているという場合でも、仕事・収入が減ったというケースも。例えばMae sotでは以前は多くの家庭が共働き世帯であった。しかし、現在は全体の仕事の数が減り、結果多くの女性が「無職」となった可能性もある

# Poverty Lineに基づく経済状況の分析

		母親 主業の月収 (B)																		
		0	500	1000	1500	2000	2500	2550	3000	4000	4500	5000	6000	7000	2500/3000	Don't	Don't	her	Her Son	総計
父親	0	4			1						2	3								10
	1000		1	1																2
	1500				1						1									2
	2000	4		1		2														7
	2500	2					2													4
	2550							1												1
	3000	1		1					1											3
	3500	2																		2
	4000	3		1					1	2										7
	4500	1							1											2
	5000	4							1			2								7
	6000	3								3		1	1							8
	6500	1																		1
	7000	6								1					1					8
	7500	1																		1
	8000	2																		2
	9000	4																		4
	10500														1	1				2
	11000	1																		1
	20000	1																		1
Don't																1			1	
Don't																	1		1	
his child																		1	1	
His Son																			1	
No	1																		1	
総計	41	1	4	2	2	2	1	4	6	1	5	4	2	1	1	1	1	1	80	

Tak県のPoverty Lineは2388B (人/月) (2020年度、国家統計局)。子どもが少なくとも1名いるので、最小でも世帯人数は2名 (しかし、家族が2名という回答は1世帯 (収入は仕送りのみ)、残りは3名以上) = 7146B以下の場合はPoverty Lineに満たないという事を意味する (7000Bに満たない世帯：赤)

1世帯当たりの人数を考慮する (4人家族の場合は9552B (9500) 以上、5人では…) と、世帯収入がPoverty Lineを割り込んでいないのは10世帯



# ①保護者（回答者）の職業や学歴等を含めた基礎情報

回答者の最終学歴	
no education	18
until P4	45
until P6	5
until junior high school	6
until senior high school	6
Total	80

- 8割は小学4年が最終学歴
- タイの初等教育は6年間だが、2015年までミャンマーの初等教育は4年間であった。「小学4年まで」と回答した保護者の中には、ミャンマーで初等教育を終えた人が一定数含まれると推測される。

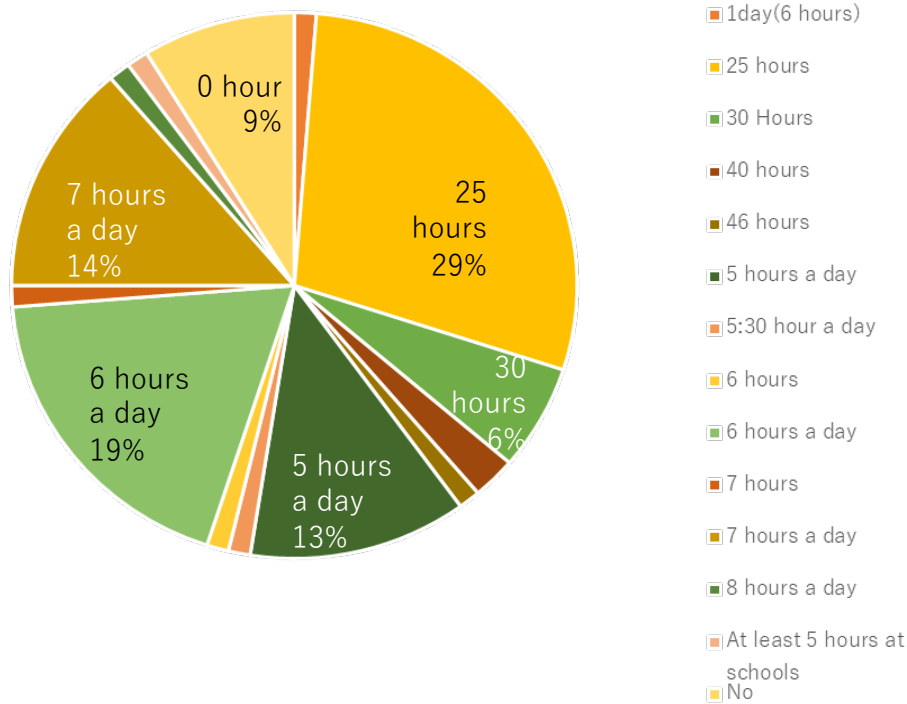
## ②子どもの家庭環境（教育環境を中心に）

学校/学習センターの名前	
Champion	5
Hlee Bee	8
Hsa Mu Gaw (?)	1
Hsa Mu Htaw	15
Hsa Tu Gaw	21
Kwe Ka Baung	17
Morning Glory 2	5
Nya Li Ah Hta	8
Total	80

全てBMWECが運営しているMLCに通学、KWE KHA BAUNG, Hsa Tu Gaw, HSA MU HTAW, HLEE BEE, Morning Glory 2 and CHAMPION はMae sot（中心部）、NYA LI AH TA は Mae ramat 郡（郊外）に位置する。

\*教育費は1人当たり500B/年という回答が最も多く（10名）、詳細は、2人で年1,000B、1人で500Bなどまちまち

# covid-19流行前の学習状況



25時間～30時間（5-6時間/日）という回答が67% ※週〇時間なのか、1日〇時間なのか不明な回答は除く

英語よりも中国語を第二外国語として学ぶ（学んでいた）子供が多く、語学以外にもまんべんなく教科学習をしていた状況がうかがえる

covid-19流行前、あなたの子どもは以下の教科を学んでいましたか	はい	いいえ	無回答	総計
社会科	61	18	1	80
算数/数学	78	2	0	80
理科	74	6	0	80
中国語	77	1	2	80
英語	0	77	3	80
その他言語	20	31	29	80

# 家庭学習の状況

子どもと一緒に、次の活動に1日何時間費やすか	0	1-20分	21-40分	41-60分	2時間	3時間以上	総計
テレビを見たりゲームをしたりする	25	6	8	19	14	8	80
スポーツをする	40	7	12	9	6	6	80
料理や家事	16	15	13	16	14	6	80
子どもの宿題をみる	16	11	13	28	12	0	80

子どもの宿題をみるのはだれの責任か	いない	その他	兄/姉	父	父、その他	父、兄/姉	父、母	母	母、兄/姉	総計
	15	3	11	11	1	1	3	32	3	80

全く宿題をみない世帯は20%、**母親が見るのが38世帯**、**父親が見るのが13世帯**

# 父母の仕事時間と家庭学習

父親の1日当たりの 労働時間	子どもの宿題をみるのはだれの責任か							総計		
	いない	その他	兄/姉	父	父、その他	父、兄/姉	母		母、兄/姉	
0	1		1			1		1	4	
4	1								1	
5							1		1	
7							5		5	
8	4	2	3	7			3	16	1	36
9			1	1				1		3

1日0～9時間までの50名（それ以外は、週当たりの時間が書かれるなどまちまち）の中でみると、父親の労働時間に関わらず母親が主として家庭学習を担っている。母親の方は、労働時間が長いと他の家族に担い手が移る傾向もみられる

母親の1日当たりの 労働時間	子どもの宿題をみるのはだれの責任か							総計		
	いない	その他	兄/姉	父	父、その他	父、兄/姉	母		母、兄/姉	
0	8	1	6	6		1	1	15	2	40
2								1		1
4								1		1
5								2		2
6								1		1
7								1		1
8	6	2	2	4			2	5		21

# 父母の家庭時間と自宅学習（2）

子どもの宿題をみる時間	父親の1日当たりの労働時間（14・19時間、の回答は週当たり）						合計	総計
	8	9	14	19	10以上			
0				1			1	1
1-20分	1		1				2	2
21-40分	2						2	2
41-60分	4						4	4
2時間		1				1	2	2
総計	7	1	1	1		1	11	11

子どもの宿題をみる時間	母親の1日当たりの労働時間									合計	総計
	0	2	3	5	7	8	10	11			
1-20分	4							2		6	6
21-40分	4		1			1				6	6
41-60分	8			1	1	2		2		14	14
2時間	4	1						1		6	6
総計	20	1	1	1	1	3	1	4		32	32

（宿題をみるのが「父」「母」と回答した世帯に絞って集計）父母が担う場合は、労働時間が短い方が家庭学習に時間を割いている傾向がみられる



# 家庭のICT教育環境は貧弱だ

タブレット	スマートフォン		総計
	ある	ない	
ない	77	3	80
総計	77	3	80

自宅で用いるネットワーク環境の種類	
Pocket Wifi	3
ない	1
モバイルインターネット	63
ไม่มี	8
สายทองแดง (有線)	3
光ファイバー	2
総計	80

- 自宅で使用する機器:77名がスマートフォンを所持、PCがあるのは3名でタブレットは0名
- (Wifi, 有線, 光ファイバーと比較して) モバイルインターネットは速度制限があることが予想される

# オンライン学習の状況

お子さん（孫）は1日にどのくらいスマートフォンを使用しますか（時間）	お子さん（孫）は自身のスマートフォンを持っていますか		
	持っている	持っていない	総計
1	9	15	24
1.5	2		2
2	12	6	18
3	12	1	13
4	3		3
5	2		2
6	1		1
20分		1	1
30分		2	2
使わない		14	14
総計	41	39	80

自宅にe-learning教材はありますか	過去数年間、お子さん（孫）はオンライン学習をしましたか		
	はい	いいえ	総計
ある	0	5	5
ない	8	67	75
総計	8	72	80

## “はい”と回答した子供が通うMLC

Hlee Bee	Kwe Ka Baung	Morning Glory (2)	総計
3	4	1	8

E-learning教材にはオーディオブックも含むオンライン学習経験があるのは8世帯。全てMae sotのMLCに通っているバンコクの移民コミュニティでの予備調査から、休校中教員がスマートフォン（LINE等）で課題を指示し、児童が紙ベースの課題を学習、質問等を行う、という事例が報告されている（2022年3月）。ただし、学習中に質問できる環境は整っていない。

➡オンライン学習とは見なしにくいですが、スマートフォンを利用した学習ともいえる。一定時間スマートフォンを用いている子どもの場合は、こうした学習形態の可能性も？

# UNESCOによる遠隔教育は活用されていない

2020年のCOVID-19パンデミックの際、ターク県で移民児童生徒の教育を管轄するMECC(Migrant Educational Coordination Center)は、学校・学習センターの閉鎖時の教育にLearnBigを活用した。LearnBigは、ユネスコ・バンコク事務所が2015年11月に立ち上げたMobile Literacy for Out-of-School Children project in Thailandの一環として開発され、タブレット（LearnBigアプリ、衛星テレビ、インターネットをプリロード）を活用して、タイーミャンマー国境付近の移民（無国籍者含む）、少数民族の子どもたちの基本的な識字能力と計算能力を強化することを目的としている

アプリには、タイ語、ミャンマー語、マレー語による教科書、（指導者用）カリキュラム、読み物を含む書籍が700冊以上収録されている\*（Learn Big Project）。2015年に1,440人、2016年に3,967人の学習者にICTデバイスが提供された（UNESCO BANGKOK, 2016）。

\* UNESCO BANGKOK(2020)によれば、2020年現在は1,000冊以上の資料が収録されている。

当プロジェクトはMicrosoftによって資金提供され、ユネスコ、Microsoft Thailand、True Corporation、およびONIE(Office of the Non-formal and Informal Education)によって実施されている。マイクロソフトは、資金、プログラム用のタブレット、および関連するトレーニングの提供、Trueは教育TVに焦点を当てたインターネットおよび衛星TVパッケージ、ONIEはイニシアチブの長期的な実行可能性を保証するという役割を担っている(UNESCO, 2015)。

またLearnBig は、感染拡大防止やパンデミック時の生活支援にも活用された。UNESCOはタイとミャンマーの国連機関とネットワークの支援を受けてCOVID-19に関する学習教材（手指の洗い方、感染防止に気を付けた生活様式など）や成人向けの資料（ワクチンの効果、支援制度、自宅隔離の方法など）を作成し、LearnBigを通じて提供している（UNESCO BANGKOK, 2020）。

➡資料は実際に作成・配信済。また、スマートフォンは9割超の家庭に普及しており、情報提供の役割は果たされているといえる

### ③保護者の教育方針

次の考え方に同意しますか？	そう思わない	あまりそう思わない	そう思う	非常にそう思う	総計
子どもが学校生活を楽しんでいれば、子どもの成績は気にならない	16	16	41	0	73
子どもの将来を考え、子どもを塾や追加クラスに通わせる必要があると思う	1	3	55	21	80
子どもに自分で考えさせ、学ばせる	0	7	49	24	80
子どもにコンピューターや外国語などの特別なスキルを身につけさせたい	1	0	45	34	80
子どもが外国語と外国の文化を体験する機会を持つとする	1	18	54	7	80
スポーツ、音楽、キャンプなど、学校以外の活動に参加することで、子どもが学び、経験を積むことが重要だと思う	5	20	45	10	80
コンピューターやタブレットを使って学校で教えてほしい	1	5	58	16	80
勉強中にパソコンやタブレットを使うと、子どもが内容をよく理解できる	6	20	50	4	80
電子ベースの宿題が子どもに内容をよりよく理解させると思う	11	20	48	1	80

成績が気になる：5割、**気にならない：4割**の一方、**将来のために追加クラスに通わせたい保護者は9割超。**

9割以上がICT機器を用いた学習を学校で進めてほしい一方で、ICT機器が子どもの学習理解に役立つと考える保護者は7割弱、少しギャップがみられる

# 子どもの進路について

子どもに受けさせたい教育レベル	親の教育レベル					総計
	教育を受けていない	小4	小6	中学校	高校	
高校	1	3	1			5
Ⓐ (前期高等専門学校卒)	2	1		1	1	5
Ⓑ (後期高等専門学校卒)		1				1
学士	10	26	4	5	4	49
修士		3				3
子ども次第	3	11			1	15
わからない	2					2
総計	18	45	5	6	6	80

“学士まで”を望む保護者が6割で、中学・高校終了の場合、1人を除き自分より上（ポーウォーチャー＝高卒とみなす場合）か同じ  
”学士まで”の次に多いのは”子ども次第”（小6以上の保護者には1人しかいない）



- 研究代表金子勝規
- タイの新型コロナウイルス感染症対策下の遠隔教育と教育格差に関する調査研究
- 公益財団法人電気通信普及財団
- 2020 年度 研究調査助成
- 研究代表野津隆志
- タイにおける外国人児童の教育に関する総合的調査研究
- 科学研究費基盤研究 (C)

# 参考文献

BMWEC(2020). *Situational Survey Report of BMWEC MLCs during the COVID-19 Pandemic*. BMWEC (未刊行)

Learn Big Project. Retrieved from <https://www.learnbig.net/> (June 2, 2022)

Lowe, T., Chan, L. and Tyrosvoutis, G. (2022). *Safety nets: A situational analysis of non-formal educational pathways for migrant children in Tak Province, Thailand*. Teacher FOCUS and Help without Frontiers Thailand Foundation. Retrieved June 1, 2022, from <https://www.teacherfocusmyanmar.org/advocacy-resources>

Sasaki, M. & Tyrosvoutis, G. (2020). *Education Reimagined: COVID-19 Emergency Response for Migrant Education*. Teacher FOCUS. Retrieved July 30, 2020, from <https://www.teacherfocusmyanmar.org/advocacy-resources>

UNESCO (2015). UNESCO, Microsoft, True and partners join in ‘Mobile Learning for Out-Of-School Children’ initiative at Thai-Myanmar Border. Retrieved from <https://en.unesco.org/news/unesco-microsoft-true-and-partners-join-mobile-learning-out-school-children-initiative-thai> (June 2, 2022)

UNESCO BANGKOK(2016). Mobile Literacy for Out-of-School Children project in Thailand (Microsoft, True Cooperation and MOE Thailand). <https://bangkok.unesco.org/content/mobile-literacy-out-school-children-project-thailand-microsoft-true-cooperation-and-moe> (June 2, 2022)

UNESCO BANGKOK(2020). Outreach to migrant learners is essential in COVID-19 response. Retrieved from <https://bangkok.unesco.org/content/outreach-migrant-learners-essential-covid-19-response> (June 2, 2022)